

我が民泊協力会を振り返って

会長 辻 國政

一生の思い出にすることで、民泊協力会設立を決定した笠戸島連合自治会。各地区の皆さんに協力をお願いし、国体に対する機運を盛り上げつつ、9月11日の受入チーム抽選会で「笠戸島に行ってみよう。」と聞いていた地元山口県を見事引き当てた。

協力会一同大いに盛り上がっている中、9月30日、選手団が拠点施設である笠戸島公民館に到着。夕方、笠戸小学校・江の浦小学校児童による和太鼓、沖縄の踊り等で選手団をおもてなし。歓迎会も大いに盛り上がった。

10月2日、決戦の日。大きな声で応援したが、惜敗した。真剣勝負を観て本当に感動した。夜、激励送別会では、民泊協力会と選手が一つとなり和気あいあいと接することができた。本当にありがとう。

10月3日の朝、お別れの日。選手の皆さんと別れの言葉を交わし、手を振って見送るときには、胸にジーンと来るものがあった。

1年3ヶ月前に設立した民泊協力会。いろいろな苦勞を乗り越え、無事本番を終了。ひとえに役員の皆様、民泊協力会にご協力いただいた全ての皆様のおかげです。厚く御礼を申し上げます。

笠戸島7地区全体での協力体制で成功した笠戸島連合自治会民泊協力会。これからも頑張ろう。





私の国体

民泊家庭 森野多津子

2年前に軽い気持ちで引き受けた民泊の話。大会が近づくにつれ何をどんな風に準備すればいいのかと不安が頭をよぎっていたが、歓迎会で選手達と自己紹介を交わしたときに彼女達の明るさと人懐っこさで今まで不安に思っていたことが一気に吹き飛んだ。

試合当日は民泊を担当している人たちが同じジャンパーを着て応援に出かけた。1回戦で負けてしまったけれど迫力のある戦いに久しぶりに大興奮し、楽しい時間を持たせてもらった。

国体も終わり、秋が少しずつ深まっている10月の末に我が家に泊まった選手の1人が遊びに来てくれた。久しぶりの再会にお茶をしながらお互いの近況を話した。

3日ほど宿を提供しただけ。けれど新しい出会いができ「民泊を引き受けてよかったな」と思っている。

がんばった太こえんそう

笠戸小5年 笠本広海

9月30日、バスケットボールの選手に太このえんそうをひろうしました。

江のうらの笠戸島公民館で、「風」、「空」、「源」の3曲をえんそうしました。

3曲とも、リズムが速かったです。それに、私はしめ太こで、細かいリズムが多いパートです。「源」では、しめ太こがずっと細かいリズムをたたくので、手元がごちゃごちゃになってしまいました。まちがえることはなかったけど、どんな曲か分かりにくくなってしまったので、残念でした。

でも選手のみなさんがはく手をしてくれてホッとしました。選手のみなさんに元気をあげられたと思うので良かったです。



民泊国体の思い出

江の浦小6年 メリットひなの

「こののぼり旗はどこに立つのかな。」

わたしは、そう思いながら一生けんめいのぼり旗に絵を描きました。笠戸島にバスケットボール山口成年女子チームのみなさんが民泊されることになって、江の浦小の全校児童で歓迎のぼり旗を描きました。笠戸ヒラメ、笠戸大橋、瀬ダコにアサリ。完成したのぼり旗を並べると、ふるさと笠戸島の自まんのものがせいぞろいしました。

いよいよ女子チームのみなさんの歓迎会の日。わたしが描いたのぼり旗は、大漁旗といっしょに公民館に飾られていました。大漁旗の中には、わたしの知っているおじさんの船の旗もありました。大漁旗と手作りののぼり旗。選手の皆さんを心からおもてなしたいという心意気が風におどっていました。

歓迎会では私たちは、選手のみなさんが幸運に恵まれるように、力いっぱい江の浦エイサーをおどりました。すると選手のみなさんが自然に手拍子を打ってくださったのです。「私たちの気持ちが選手のみなさんに通じたんだ。」私は、そう思いました。うれしくて、うれしくて、たまりませんでした。

私は、陸上をしています。いずれ国体選手としてプレーしてみたいという願いを持っています。その時、フィールドに立つ私をささえてくれるたくさんのみなさんの気持ちに全力でこたえる選手になろうと思います。



笠戸島民泊協会の皆様、国体期間中は大変お世話になりました。民泊は4年ぶりでしたので多少緊張しましたが、到着後のあたたかい歓迎会で選手・スタッフ一同の緊張がほぐれ、楽しむことができました。またスタッフの希望として民泊先は笠戸島が良いと考えていたところ、本当に笠戸島へ行くことができ、誠にありがとうございました（ここで運を使い切ったのかもしれませんが）。

1回戦、山形県と対戦し、前半リードで折り返しましたが、試合残り1分、勝利の女神は山形県に行ってしまいました。決勝戦まで勝ち進み、優勝することが山口国体での目標でしたので、笠戸島に長く滞在する予定でいましたが、結果、滞在期間が短くなってしまい申し訳なく思っております。しかし、笠戸島民泊協会の皆様の大声援、また山口県民の皆様の大声援を受けて試合ができたことは一生の宝物となりました。

最後に笠戸島民泊協会会長をはじめ、役員の皆様、山口県担当の小林さん、色々我がまま言いましたが、どんなことも快く引き受けくださり、朝早くから夜遅くまでお世話いただき、誠にありがとうございました。これからも山口県はチーム一丸となって精進していきたいと思っておりますので、引き続き応援をお願いいたします。また選手・スタッフの半数は下松市民ですので、また下松市内で会った時には声を掛けていただければと思いますし、笠戸島入口横の体育館にも気軽に寄っていただければと思います。

山口県バスケットボール成年女子

監督 梅田貴之

